

CSR Report 2018

株式会社光洲産業



ここへは、
手投げ品目以外の物は、
降ろさず、必ず
ヤードで降ろして下さい。
例：金属類、ガラス、etc.



目次

01	目次 / 編集方針 / 会社概要
02	沿革
03・04	トップメッセージ
05・06	企業理念・方針
07・08	事業案内 収集運搬事業
09・10	事業案内 処分事業
11・12	事業案内 現場分別サポート事業
13・14	CSR ビジョン・CSR 方針
15・16	KPI
17・18	マテリアルバランス
19・20	CSR 重点項目 1：安全
21・22	CSR 重点項目 2：人財づくり
23・24	CSR 重点項目 3：環境保全
25・26	CSR 重点項目 4：コミュニケーション
27・28	CSR 重点項目 5：地域社会との共生
29・30	CSV 重点項目：リサイクル

編集方針

報告対象組織	株式会社光洲産業
報告対象期間	2018 年 1 月～ 2018 年 12 月 (※一部対象期間外を含む)
発行時期	2019 年 11 月
参考ガイドライン	環境省「環境報告ガイドライン」(2018 年版)
お問合せ先	株式会社光洲産業 担当：光田 〒213-0032 神奈川県川崎市高津市久地 4-10-11 TEL：044-822-0795 FAX：044-811-7967 E-Mail：info@koushuu-sangyou.com

会社概要

商号	株式会社光洲産業
代表者	光田 栄吉
設立	1982 年
資本金	1,000 万円
従業員数	186 名 (グループ会社含む：357 名) ※2019 年 5 月末時点
①本社	神奈川県川崎市高津区久地 4-10-11
②光洲エコファクトリー 川崎・久地	神奈川県川崎市高津区久地 594-1 外
③光洲エコファクトリー 川崎・宇奈根	神奈川県川崎市高津区宇奈根 759-1 外
④光洲エコファクトリー YOKOHAMA BAY	神奈川県横浜市神奈川区恵比須町 5-12
⑤光洲エコファクトリー 横浜・泉第二	神奈川県横浜市泉区和泉町 5874-24 外 2 筆
⑥光洲エコスペース 横浜・泉	神奈川県横浜市泉区和泉町 5881-8 外 2 筆
●安定型最終処分場	栃木県那須塩原市戸田宇那須東原 167-1



沿革

1982 年	12 月	神奈川県川崎市に有限会社光洲産業を設立 (川崎市高津区久地 548)
1983 年	1 月	川崎市において産業廃棄物収集運搬業及び処分業の許可取得
	4 月	収集運搬・処分業の営業開始 川崎市高津区久地に中間処理施設設置 (焼却・選別)
1985 年	9 月	神奈川県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
1989 年	11 月	静岡県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
	12 月	横浜市において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
1991 年	5 月	東京都において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
1992 年	11 月	川崎市高津区久地に本社ビル完成
1993 年	8 月	中間処理施設の変更 (焼却・選別→破碎・焼却)
1994 年	10 月	埼玉県, さいたま市, 川越市において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
1995 年	1 月	千葉県, 船橋市において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
	6 月	横浜市泉区和泉町に横浜積替保管施設設置
1996 年	8 月	本社中間処理施設の変更 (破碎・焼却→破碎・選別破碎・選別)
	12 月	山梨県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
1997 年	1 月	栃木県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
1998 年	3 月	栃木県において産業廃棄物処分業 (安定型最終処分) の許可取得 栃木県那須塩原市西岩崎に開設
2000 年	4 月	横須賀市において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
	8 月	川崎市高津区宇奈根に積替保管施設設置 (分別リサイクル対応型)
2001 年	8 月	中間処理 (宇奈根) 施設新設 積替保管施設を中間処理施設へ (破碎・切断圧縮・破碎分離)
2002 年	1 月	ISO14001 認証取得 (本社・中間処理施設)
	11 月	千葉市, 茨城県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
	12 月	中間処理 (宇奈根) 施設増設 (圧縮・梱包・溶融)
2004 年	5 月	安定型最終処分場許可取得 (栃木県那須塩原市戸田に開設) ISO14001 認証取得 (光洲エコファクトリー 川崎・宇奈根)
2006 年	6 月	株式会社に組織変更 横浜市において産業廃棄物処分業の許可取得 光洲エコファクトリー YOKOHAMA BAY(総合リサイクルセンター) 新設
	12 月	宮城県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
2007 年	1 月	仙台市において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
	5 月	群馬県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
2008 年	7 月	愛知県において特別管理産業廃棄物収集運搬業の許可取得
2009 年	3 月	滋賀県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
	11 月	高知県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
2010 年	1 月	兵庫県において産業廃棄物収集運搬業の許可取得
	3 月	神奈川県, 相模原市において特別管理産業廃棄物収集運搬業の許可取得
	4 月	横浜市, 横須賀市, 東京都において特別管理産業廃棄物収集運搬業の許可取得
	5 月	川崎市において特別管理産業廃棄物収集運搬業の許可取得
	10 月	茨城県において特別管理産業廃棄物収集運搬業の許可取得
2011 年	12 月	東京都 優良性基準適合認定制度「産廃エキスパート (収集運搬業)」認定
2013 年	3 月	ISO14001 認証取得 (光洲エコファクトリー YOKOHAMA BAY)
2015 年	8 月	OHSAS18001 認証取得
2017 年	3 月	光洲エコファクトリー YOKOHAMA BAY 施設増設 (選別)
2018 年	4 月	光洲エコファクトリー 横浜・泉第二工場 用地取得 (2019 年 6 月開設)

社員と共に社会的責任を果たし 資源循環の起点になるために

株式会社光洲産業
代表取締役

光田 栄吉

トップメッセージ

社会のインフラとしての廃棄物処理

1982 年、光洲産業は産業廃棄物の収集運搬・中間処理業としてスタートしました。当時は高度経済成長の時代。建設工事が数多く動く中、産廃の中間処理施設の重要度も高まるであろうとの思いで創業しました。

あれから 37 年、産業廃棄物処理業を取り巻く環境は大きな変化を遂げてきました。埋立から焼却、そしてリサイクルの時代。今では『資源循環』をいかに効率よく行っていくかが、社会全体の課題になっています。単に「不要なもの」という認識から、「資源調達源」に変わりつつあり

ます。常に、動脈産業を支える静脈産業としての役割を感じながら、更に環境産業企業としての存在価値を高めて参ります。

光洲産業の源は社員

2019 年 5 月現在、光洲産業で共に歩んでいる仲間は、グループ会社含め 350 名を越えました。仲間が増えていくにあたり、大切にしてきたのは、企業文化をつくることです。会社としての想いは経営理念を基本とし、社内コミュニケーションのあり方や会社人としてのあるべき姿の追求、そして

お客様に心から感謝することの大切さを強く唱えてまいりました。特に経営理念は、その主旨を働く人たちが同じ理解をできるように説明文を入れたため、社員からすると長文に感じるかもしれませんが、ひとつひとつの意味がわかりやすくなっております。今では、一言一句暗唱できる社員が多く育ちました。

私の自慢にはなりますが、このように真面目で愚直な姿勢で仕事に取り組み、お客様へのサービスを提供してくれる社員が多くいることはとても誇らしく感じています。

そんな社員の幸せを守り、社員同士の連帯感・チームワークを形成することが、光洲産業をより強く、『いい会社』にしていくと考えております。

光洲産業のCSRは安全を最優先する

今回、光洲産業として初めてのCSRレポートを発行するにあたり、当社のCSRを改めて再考し、後述の「CSR基本方針」にまとめました。当社の経営理念等と今後のビジョン、そして廃棄物業界を取り巻く外部・内部環境を考慮し、「CSR 重点項目」を策定しました。

重点項目は計5つ、その最初に据えたのが『安全』です。当社事業は、運搬車両や中間処理を行う様々な機械・設備を駆使することで成り立っており、常に危険と隣り合わせです。また、安全な職場環境を整備することで、社員の安心に繋がり、安全を維持していくことがお客様や協力会社様、地域の皆様の安心に繋がり、信頼関係が築かれていくと考えます。この大前提は光洲産業の基盤としてCSR重点項目に据え、より強固なものとなるよう活動を推進していきます。

資源循環を追求し社会課題の解決を目指す

CSR基本方針を整備していく中で、当社の事業を通じて社会課題の解決に寄与できることはないか、いわゆる CSV（共有価値の創造）についても考えを深めました。

創業より一貫して廃棄物処理業を行う当社は、いかに廃棄物を『資源』として価値を見いだし、社会に還元できるかを求められていると感じております。資源は有限であることと効率的なモノの運用があらゆる側面から課題となっています。当社では主に建設工事に伴い発生する廃棄物の処理を行っていますが、多品目の廃棄物が混ざり合い発生することが特徴です。しかし、最新鋭の技術を駆使した設備を導入したり、人の手で分別することによって、資源として生まれかわることができます。

資源循環を生み出せるかどうか、当社の事業はその起点にもなり得ます。これを社会的使命とも捉え、リサイクルを追求していくことをCSV重点項目に設定しました。

当社は 37 期目に入りました。ここまで実績を積み重ねてこられたのも、お客様や協力会社様、そして地域の皆様のおかげです。当社の活動を通じて、皆様に恩返しをし続けることを心に留め、社員一丸となって日々取り組んで参ります。

そのためには、皆様のお声が一番の励みになります。当社事業活動や今回の「CSRレポート 2018」について、忌憚のないご意見を頂戴できますと幸いです。また、今後も当社へのご支援を頂けますよう、宜しくお願い致します。

経営理念・方針



経営理念

当社は環境産業に携わるものとして高い志を持ち「正しく」「強く」「誠実な」そして世に強く必要とされ、働く人達が『いい会社』と実感出来る企業を目指し活動してまいります。

経営方針

一、誠実さを基本理念とし社会の環境保全、資源循環型社会形成並びに地球温暖化防止に貢献する

誠実さをもって業に携わり法遵守のもと適正な処理処分により社会の環境を保全すること、廃棄物の処理技術及び処理システムの向上を目指し限らない研究・開発・工夫に努め、リサイクルを推進し資源循環型社会を形成すること、並びに地球温暖化を防止することこそ我々処理業者に授けられた使命であり、ここにわが社の社会的存在価値が求められるものである。

一、常にお客様を第一に思い感謝の心で接する

お客様いらしてこそ我々の事業が生まれ成り立ち、一人一人の生活が支えられるものである。常にお客様を第一に思い、お客様中心に物事に対処し、感謝の心を持って接することであり、お客様に信用され頼られる仕事をする事、並びに心に通じるサービスを提供し、満足・喜び・感動を得られるようにすることは我々の最優先課題である。



一、働く人たちが皆が自分たちの会社と思い、常に現状の上を目指し限らない発展を遂げる

会社は働く人たち皆と、その家族の明るく豊かな生活の安定と向上を目指し存在するものであり永續させることが至上命題であるという考えのもと、力強く勝ち残る会社にしてゆかねばならない。そのためには皆が自分達の会社を愛し、あらゆる物事の考え方・行動をこうすることが会社のためになるか、そうでないかということに判断基準を置き、責任と自覚に満ちた行動をとるということである。

一人一人が会社の力となって学び知恵を振り絞り、自分を磨くという心意気を持って仕事をするにより決して現状に満足することない進化し続ける成長発展企業を目指す。



一、働く人たちが皆が仲間意識を高め連帯感の強い会社を目指す

会社が良くなるためには、働く人達皆が互いに尊重し合い、仲間意識が強く、組織力が高い、一体感を持った明るく元気で活気に満ちた仕事を創造することにより、意思疎通の高い協力協調と一致団結できる社風を形成し、皆で『いい会社』と実感出来る職場を実現する事である。



一、人づくりこそ企業発展のすべてである

「企業は人なり」と言われるように、人づくりのシステムをつくり充実させることにより、働く人達皆の考え方・行動が変わり、無限の可能性を実現できるものである。まずは人間性を高めることであろう。誠実で謙虚な心を持ち、道徳をわきまえ礼儀を重んじ、互いに思いやりを振りまき感謝の心で接することであり、自分中心から相手中心そして他人責任から自分責任の考えに基づき「まず自分から」を実践する事である。そして一人一人が担当業務能力を向上させ、それぞれに与えられた目標課題に対し成果という結果を出せる人財としての活躍を期待するものである。



一、安全と健康の確保は会社経営の基盤である

会社にとって一番大切なことは、働く人達とその家族の幸せを守り続けることであり、無事故・無災害・無病であることは、それがための絶対的条件である。



一、社会的公器としての役割を果たし社会的存在価値を高める

会社が永續し続けるためには世に強く必要とされることである。それのためには地域との交流を深め和を保ち、幅広い社会貢献・福祉活動に努め、社会に対して感謝の心を決して忘れてはならない。





事業案内

収集運搬事業

廃棄物の種類・量に適したコンテナやフレコンバッグを現場に設置し、効率的に収集します。また、保有トラックも 2t 車から大型車まで多数保有しており、排出状況や現場工程に合わせて最適な車両で運搬します。

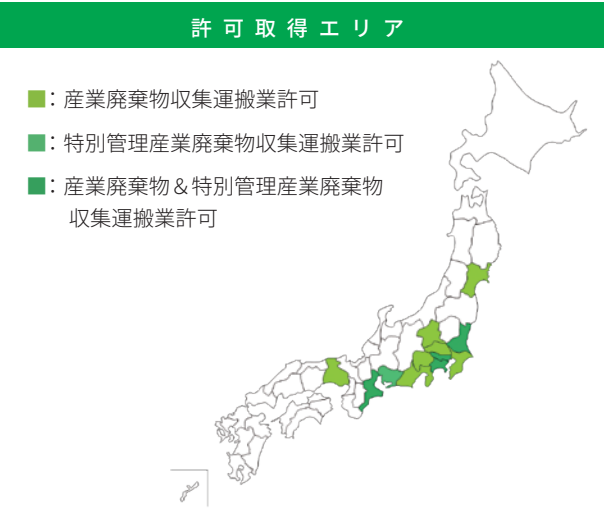
廃棄物収集運搬業許可内容

関東圏を中心に産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集運搬許可を取得しております。また、積替保管の許可も取得しており、より効率の良い運搬が可能で、環境影響も最小限に留められます。

許可品目	
産業廃棄物	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、 廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、金属くず、ガラスくず等、 がれき類
特別管理 産業廃棄物	廃石綿等

積替保管

川崎市	光洲エコファクトリー 川崎・宇奈根	廃プラスチック類、ガラスくず等、がれき類 (以上 3 種類は石綿含有産業廃棄物に限る)	保管面積：41.3 ㎡ 保管上限：126 ㎡
横浜市	光洲エコファクトリー YOKOHAMA BAY	廃プラスチック類、ガラスくず等、がれき類 (以上 3 種類は石綿含有産業廃棄物を含む)、 金属くず、汚泥、廃油	保管面積：250.1 ㎡ 保管上限：392.198 ㎡
	光洲エコファクトリー 横浜・泉第二	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等 (以上 3 種類は水銀使用製品産業廃棄物を含む)	保管面積：1.255 ㎡ 保管上限：1.12 ㎡
	光洲エコスペース 横浜・泉	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、 金属くず、ガラスくず等、がれき類 (廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず等は水銀使用製品産業廃棄物を含む) (廃プラスチック類、ガラスくず等、がれき類は石綿含有産業廃棄物を含む)	保管面積：556.62 ㎡ 保管上限：971.6 ㎡



収集運搬車両

	2t ダンプ車 車幅： 1,690 車高： 1,990 車長： 4,690	11 台		4t コンテナ車 (8 m³) 車幅： 2,200 車高： 2,450 車長： 6,600	26 台
	3t ユニック車 車幅： 2,180 車高： 2,720 車長： 6,170	18 台		8t ユニック車 車幅： 2,320 車高： 3,190 車長： 8,730	6 台
	3t コンテナ車 車幅： 1,690 車高： 1,990 車長： 4,350	16 台		大型平ダンプ車 車幅： 2,490 車高： 3,300 車長： 8,000	3 台
	4t ダンプ車 車幅： 2,200 車高： 2,450 車長： 5,850	20 台		大型深ダンプ車 車幅： 2,490 車高： 3,790 車長： 11,550	17 台
	4t ユニック車 車幅： 2,340 車高： 3,140 車長： 8,480	5 台		大型コンテナ車 (25 m³~) 車幅： 2,490 車高： 3,550 車長： 11,190	13 台

コンテナ等

1 ㎡コンテナ 外寸：720×1,615×1,372 内寸：620×1,515×1,110	8 ㎡コンテナ 外寸：2,100×3,865×1,455 内寸：1,900×3,600×1,170
2 ㎡コンテナ 外寸：1,120×1,915×1,372 内寸：1,020×1,810×1,110	25 ㎡コンテナ 外寸：2,400×6,200×2,000 内寸：2,200×6,000×1,800
3 ㎡コンテナ 外寸：1,615×1,915×1,372 内寸：1,515×1,615×1,110	1 ㎡フレコンバッグ エコパレット 外寸：1,000×1,000×1,340 ※キャスター付きにより移動可。組み立て式
4 ㎡コンテナ 外寸：1,670×3,000×1,160 内寸：1,530×2,730×900	テナント工事 専用回収袋 ※受注制作になります

事業案内

処分事業

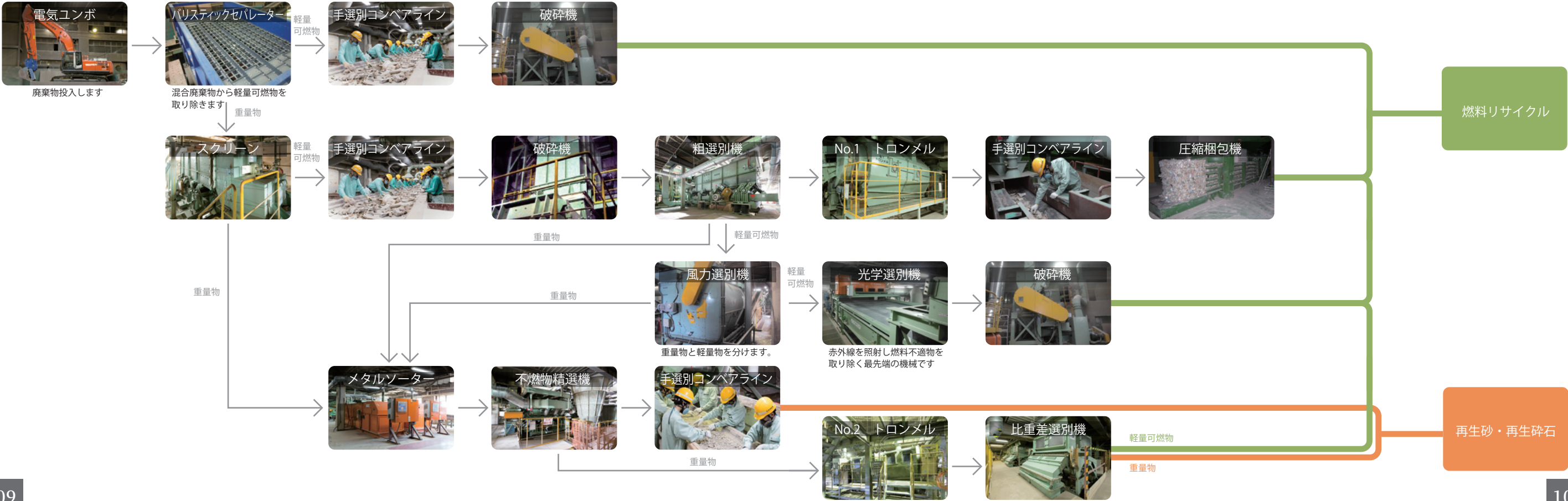
事業活動に伴い発生する産業廃棄物を適正かつよりリサイクルできるよう、中間処理を行います。リサイクルするためには、いかに素材別に分けることができるかが重要です。当社では様々な選別を行いリサイクルを追い求めることで、資源循環の起点を目指します。

廃棄物の取扱実績

ALC	プラスチック容器	木パレット	発泡スチロール	パーテーション
フェルール	段ボール	プラパレット	カーペット	人工芝
ケイカル板	石綿含有産業廃棄物	什器	サイディング	足場板
スレート	クロス	蛍光灯	ルーフィング	タイヤ
解体木材	壁紙	紙くず	PP バンド	ゴムホース
グラスウール	木製棚	OA フロア	照明灯具	畳
ロックウール	鋼管	太陽光パネル	コンクリートブロック	番線
瓦	塩ビ管	建設混合廃棄物	庭石	浴槽
コンクリートがら	布	FRP	アスファルト防水	地中埋設物
アスファルトがら	S1 ボード	伐採木	アスロック	保温材
廃石綿	塗料缶（中身なし）	木毛板	衛生陶器	断熱材
ビニール	ゴムマット	パーティクルボード	養生シート	ロンレックス

廃棄物の高性能精選別

当社が強みとしているのは建設工事から発生する廃棄物の処理です。人の力や設備の力で選別や加工を繰り返し、燃料や原料としてリサイクルを行います。



事業案内 現場分別サポート事業

廃棄物を適正かつ有効に処理するには、発生段階から意識して行動することが重要です。
お客様と共に循環型社会を構築していくために、現場での分別サポートを行っています。

その他現場分別サポート

廃棄物管理勉強会

お客様の社内向けに、廃棄物の知識や法律、分別の意義、適正処理の流れなど、排出事業者として必要かつ重要な事項をお伝えする勉強会の講師派遣を行っています。現場での分別を推進すると同時に、産業廃棄物の法令遵守体制強化のためにもご活用頂いています。



分別グッズの販売

分別のやり方や管理方法を誤ると、不適正処理に繋がる可能性や排出事業者としてのリスクも高まります。そのようなリスクを回避した運用をしていくために、現場分別を適正に実行していくための専用回収容器等を販売しています。

【ミニ回収袋】

主にテナント工事向けの回収袋です。スタッフが検品をした後に積み込みます。



【水銀使用製品（蛍光管）専用分別容器】

2017年10月1日より、厳重な取扱いが求められるようになった蛍光管を分別する容器です。



工事の段階に合わせたサポート事例

着工前

分別提案

建物概要などから、廃棄物予想排出量の算出を行い、その上で削減計画の作成や廃棄ヤードのご提案を行います。また、工程ごとの分別種類もご提案させて頂き、現場での廃棄物コントロールの基礎作りをサポートします。

工事中

産廃ヤード

現場での分別活動がスムーズに進むよう、着工時に分別種類に合った産廃ヤードを設置します。
合わせて、分別種類ごとに専用分別看板を作成し提供します。特に分別で間違えやすい物に関しては、廃棄された実物を使用したサンプル付看板を設置します。



維持管理

分別パトロール

定期的に現場を巡回し、各現場の産廃ヤードが適正に分別されているかをチェックします。その結果は報告書にまとめ維持管理に活用いただいています。

現場説明会

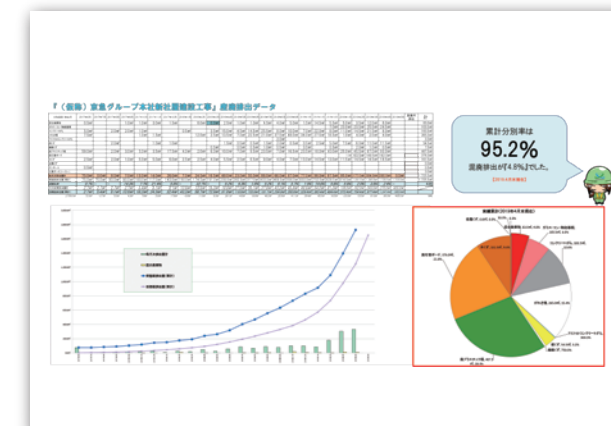
現場作業員の皆様を対象に現場説明を行います。実際に廃棄される混合廃棄物で分別デモンストレーションを行うなど、即実践できる分別のポイントを説明します。



完工後

実績レポート

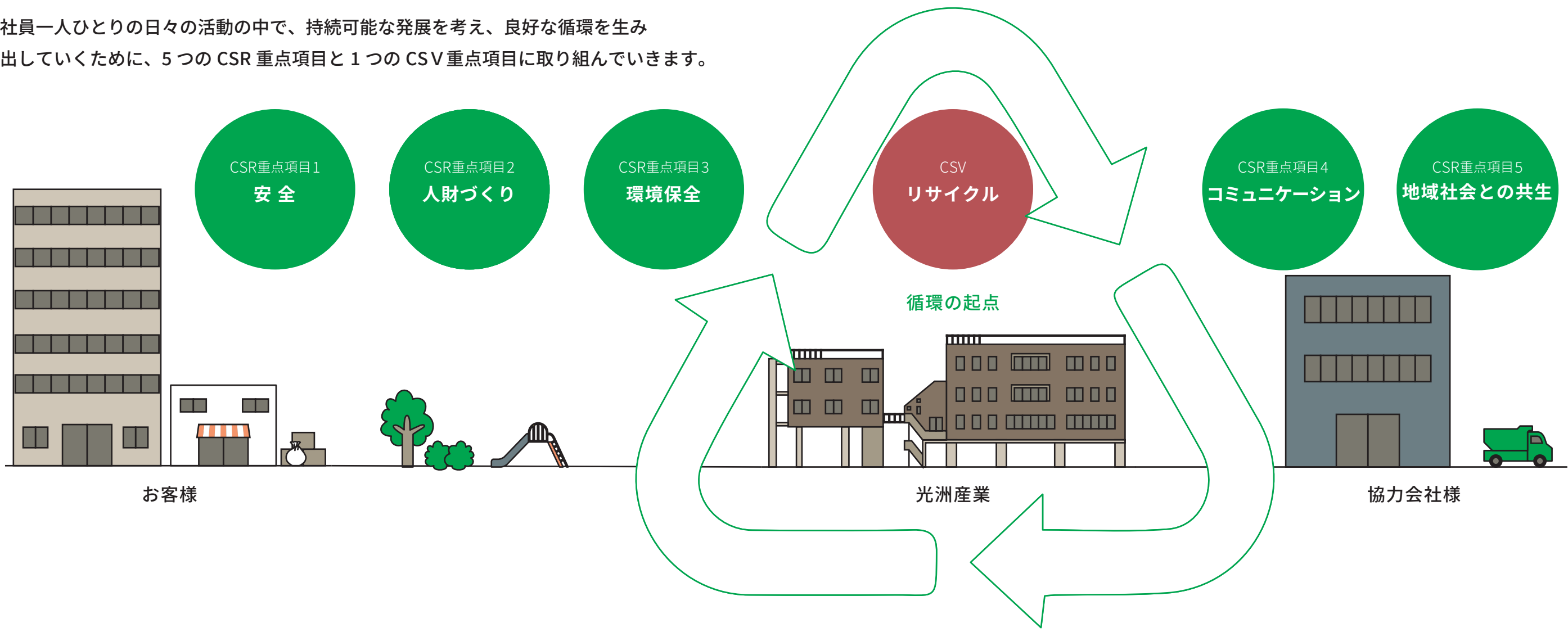
実際の廃棄物の発生状況・分別比率・発生組成割合など、ご希望のデータを管理し、報告致します。品目別発生数量や分別率、発生量比管理等、今後の現場におけるマネジメント管理に貢献します。



CSRビジョン・CSR方針

ビジョン実現に向けた CSR・CSV重点項目

社員一人ひとりの日々の活動の中で、持続可能な発展を考え、良好な循環を生み出していくために、5つのCSR重点項目と1つのCSV重点項目に取り組んでいきます。



業界内、いい会社 No.1 を目指しています

経営理念等が強固な基盤

良好な循環を創造し、社会的に必要な会社へ

社員が「自分たちの会社」と思い行動

社員が働く幸せ・やりがいを感じ、活気あふれる会社へ

様々なステークホルダーとの
連携・信頼・調和を構築

安全・安心・安定感を持ち、夢が叶えられる、魅力ある会社へ

KPI

CSR・CSV活動は、KPI（Key Performnace Indicators：重要業績評価指標）を設定し管理しています。KPIにおける活動結果の評価・分析と見直しを毎年行い、社会情勢に合わせた活動を推進していきます。

評価方法 ◎：達成率 120% ○：目標達成 △：取組実施・目標未達 ×：取組未実施

重点項目	区分	KPI	取組内容	担当部門	目標	2018 年度 結果	2018 年度 評価	2019 年度 目標	2020 年度 目標	2021 年度 目標
【CSR 重点項目 1】 安全	予防装置	安全教育プログラム 受講人数	(1) 隔週土曜日に安全教育プログラム開催 (2) 体感案内員を教育し、実施体制の強化 (3) 定期的なプログラムの見直し	安全教育プログラム 委員会	130 名	138 名	○	140 名	160 名	180 名
		安全パトロール実施件数	(1) リスクアセスメントの実施 (2) 安全衛生パトロールの実施 (3) 安全衛生委員会にて現状の共有と改善箇所の決定 (4) 運転特性を見極めた安全運転指導	収集運搬部門 中間処理部門 営業部門	19 回	18 回	△	32 回	32 回	32 回
	車両運転に おける安全	車両事故発生件数	(1) 乗車前の日常点検と月次の車両点検実施 (2) ヒヤリハットをグループミーティングで共有・検証実施 (3) 月次ミーティングにて安全運転教育実施 (4) 過積載防止活動の実施 (5) 事故再発防止の現場同行	収集運搬部門 工場部門 営業部門	前年比 30%削減	5%削減	△	前年比 30%削減	前年比 10%削減	前年比 10%削減
	危機管理	BCP（事業継続計画） の策定	(1)BCP の策定 (2) 必要な設備改善の実行 (3) 社員への周知	事業統括本部	方針の決定	方針策定完了	○	BCP の策定	必要な設備 改善等の実行	社員への周知 運用開始
【CSR 重点項目 2】 人財づくり	社員の 能力開発	研修参加回数	(1) 社内勉強会の企画とスケジューリング (2) 社外研修会・環境展示会の参加 (3) 朝礼時に自主学習成果を発表	事業統括本部 人創り教育委員会	70 回	82 回	○	—	—	—
		研修予算消化率	(1) 部署別に年間の研修受講計画を策定 (2) 定期会議にて進捗確認しながら適切な受講を促進 (3) 石綿取扱作業の特別教育（安全教育プログラム）	事業統括本部 人創り教育委員会	—	—	—	100%	100%	100%
	社会に 求められる 人材の育成	理念教育受講人数	(1) 新入社員研修にて理念教育の実施 (2) 安全教育プログラムと連動した理念教育の実施 (3) 部門に応じた理念教育の実施	事業統括本部 人創り教育委員会	全社員	160 名	△	全社員	全社員	全社員
		各教育プログラムの 構築・運用	(1) 新入社員教育プログラムの構築 (2) 階層別教育プログラムの構築 (3) 試行運用実施し、結果を分析しながら改善	事業統括本部 人創り教育委員会	—	—	—	プログラムの 構築	プログラムの 運用	各プログラムの 運用定着
【CSR 重点項目 3】 環境保全	環境影響低減	騒音値	(1) 環境作業手順の勉強会開催 (2) 環境作業手順に沿った実施訓練	中間処理工場	規定値以下	規定値以下	○	規定値以下	規定値以下	規定値以下
	エネルギーの 適正使用	売上高原単位 軽油・ガソリン使用量	(1) 自社車両アイドリングストップ・エコドライブの推進 (2) 自主管理基準の作成 (3) 自主管理基準における順守監視の実施 (4) 営業車をハイブリットカーに更新	収集運搬車両 営業車両	基準値設定	基準値設定完了	○	前年比 1% 削減	前年比 1% 削減	前年比 1% 削減
		搬入量原単位・電気使用量	(1) 全事業所の LED 照明化計画	設備管理課	基準値設定	基準値設定完了	○	前年比 1% 削減	前年比 1% 削減	前年比 1% 削減
	リデュース	一般廃棄物排出量	(1) 事務所から発生する紙くずの分別 (2) コピー用紙の使用削減 (3) 裏紙の再使用	本社事務所	6 袋以下 / 月	6 袋以下 / 月	○	6 袋以下 / 月	6 袋以下 / 月	6 袋以下 / 月
	環境配慮製品 の使用	グリーン購入 適合製品比率	(1) 現状数値の算定 (2) 事務備品のグリーン購入製品導入検討 (3) 工場備品のグリーン購入製品導入検討	財務人事課	—	—	—	基準値設定	前年比 1% 向上	前年比 1% 向上
	環境保全啓発	工場見学来場者数	(1) 排出事業者様へお声がけし視察来場いただく (2) 地域の皆様を対象としたオープンファクトリーの定期開催	営業部門 CSR 委員会	基準値設定	基準値設定完了	○	前年比 1% 向上	前年比 1% 向上	前年比 1% 向上
廃棄物研修会の 開催数		(1) 排出事業者様向けの廃棄物研修メニューの見直しと改善・実施 (2) 新築工事向けの分別説明会実施	営業部門	40 回	23 回	△	25 回	30 回	35 回	
【CSR 重点項目 4】 コミュニケーション	お客様・協力会社との コミュニケーション	アンケートによる満足度	(1)「講演と懇親の集い」の開催時にアンケート実施 (2) 当社視察時にアンケート実施 協力会社でのアンケート (3) アンケート結果を社内で共有し、改善実行	営業部門 工場部門 CS 委員会	現状値把握	現状値把握完了	○	クレームゼロ	クレームゼロ	クレームゼロ
	地域社会との コミュニケーション	加盟団体活動 延べ参加人数	(1) 加盟団体の担当者を選任 (2) 定期活動への参加	全部門	27 名	26 名	△	27 名	27 名	27 名
	社員との コミュニケーション	社内レクリエーション 延べ参加人数	(1) 福利厚生委員会でのイベント企画・運営 (2) 部門長と協力し、社員の参加を啓発	福利厚生委員会	400 名	399 名	△	400 名以上	400 名以上	400 名以上
		社内報の発行回数	(1) 広報委員会にて定期的に社内報を発行 (2) 作成後部門に応じた配布を実施	広報委員会	6 回	8 回	◎	6 回	6 回	6 回
【CSR 重点項目 5】 地域共生	地域活動への 積極的参加	アンケートによる満足度	(1) アンケートの企画・計画策定 (2) 毎年 9 月にアンケート実施 (3) アンケート結果を分析し、翌期経営計画に反映	事業統括本部	実施計画策定	策定完了	○	現状値把握	前年比 1% 向上	前年比 1% 向上
		地域活動延べ参加人数	(1) 年間スケジュールの策定 (2) 社内広報を強化し参加奨励	CSR 委員会	110 名	123 名	○	125 名	130 名	135 名
	情報発信	地域清掃の実施	(1) 工場周辺の地域清掃を毎日実施 (2) 事務所周辺の地域清掃を毎週実施	工場部門 営業部門	実施継続	実施	○	実施継続	実施継続	実施継続
Facebook での 情報発信件数		(1) 毎月の委員会で掲載記事を確認 (2) 役割分担をし定期的な発信実行	広報委員会	96 件	20 件	△	48 件	48 件	48 件	
【CSV】 リサイクル	リサイクル技術 の向上	当社搬入廃棄物 リサイクル率	(1) 中間処理工場における選別の徹底 (2) 分別しながらの荷積み・荷卸しの徹底 (3) リサイクルプラントのバージョンアップを委員会で協議し実行 (4) 社員のリサイクル知識向上 (5) 新規 2 次排出先の開拓	全部門	97.0%	97.1%	○	98.0%	98.5%	99.0%
		分別サポート実施件数	(1) リサイクルを見据えた現場分別サポート実施 (2) 現場分別サポート員の養成	営業部門	40 件	22 件	△	30 件	35 件	40 件
	リサイクル製品 の普及	リサイクル製品の 利活用量	(1) リサイクル製品の品質向上施策の実施を含めた品質管理体制の構築 (2) マーケティングを実施し販路の開拓・拡大 (3) 建設会社様等への提案	工場部門 営業部門	—	—	—	現状値把握	前年比 20% 向上	前年比 20% 向上

マテリアルバランス

IN
put

エネルギー

電気	11,464,414 kwh
軽油	277,027,999 ℓ
ガソリン	6,627,923 ℓ
水	27,494 m³
都市ガス	1,050 m³

廃棄物

廃プラスチック類	75,979.9 m³	廃石膏ボード	60,997.5 m³
紙くず	58,672.3 m³	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁くず	69,485.7 m³
木くず	309,214.4 m³	がれき類	212,205.0 m³
繊維くず	38,478.9 m³	廃棄物合計	853,558.0 m³
金属くず	28,524.3 m³		

がれき類 25%

廃プラスチック 9%

紙くず 7%

木くず 36%

繊維くず 5%

金属くず 3%

廃石膏ボード 7%

ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁くず 8%

収集運搬事業



処分事業



現場分別サポート事業



OUT
put

CO2 排出量 ※1

746,196.6 t-CO2

当社処理後リサイクル量

プラスチック	14,686.5 m³
紙くず	18,852.7 m³
木くず	319,789.6 m³
金属くず	26,590.0 m³

当社処理後排出廃棄物量 (委託)

廃プラスチック類	61,293.4 m³	廃石膏ボード	60,997.5 m³
紙くず	39,819.6 m³	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	69,485.7 m³
繊維くず	38,478.9 m³	がれき類	212,205.0 m³
金属くず	1,934.3 m³		

リサイクル率 ※2

97.1 %

※1 エネルギー等起源のCO2排出量を対象とし、「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」にて公表されている情報で算定しております。
※2 リサイクル率＝サーマルリサイクル量＋マテリアルリサイクル量／総排出量

CSR 重点項目 1： 安全

社員の安全が確保できなければ、社員の人生はもちろん、光洲産業の未来も描けません。
何よりも大切なのは『安全』の確立です。
社員の安全をお客様や協力会社様、地域の皆様の安全につなげ、
安心を提供していきます。



過積載防止の徹底

約 140 台の収集運搬車両があり様々な廃棄物の運搬を行う上で、最も気をつけているのが過積載です。安全かつコンプライアンスを遵守した運行を行うために、各種取組を行っています。

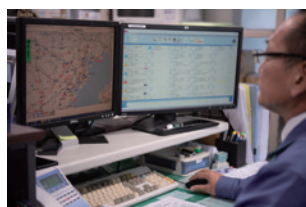
大型車両には自重計を設置し、積載時の現重量が把握できるようにしています。積込時に現場ご担当者様とコミュニケーションを図りながら作業を行うことで、過積載発生防止に努めています。また、ドライバーへの教育を徹底し、品目別の比重や積載方法について、繰り返しの教育を行っています。



特殊車両の安全運行管理実施

当社では重量物の運搬など特殊車両で運行するケースがあり、より安全な運行管理を行っています。

事前に通行許可期間内であるかの確認と安全なルートの設定を行い、工場発車前にはドライバーと運行経路と総重量をチェックします。また、運行経路をリアルタイムで管理し、管理者とドライバーの双方から安全に気を配り運行しています。



安全衛生マネジメントシステムの活用

当社では、経営方針で掲げている「安全と健康の確保は会社経営の基盤である」を実現するために、安全衛生委員会を設置し、安全衛生マネジメントを行っています。

毎月安全衛生委員会会議を開催し、工場・収集運搬・本社部門において日々の安全衛生活動の実施状況確認と問題点の検証、改善策を討議し決定します。その後、委員会メンバーが推進者として全社員への周知を行い、改善策を実施するという PDCA サイクルを確立しています。日常業務を常に改善していくことによって、安全・安心な快適職場の実現を目指しています。



「安全衛生大会」の開催

年に 1 回、全社員が集い安全衛生の向上に向けた研鑽を行う「安全衛生大会」を 2018 年 9 月 17 日に開催し、25 回目を迎えました。一年間の安全衛生活動を振り返り、優秀な結果を出したグループや社員の表彰式や、次年の安全衛生方針の共有、安全衛生の教育を行っています。

今回は、株式会社フジタの佐野様より安全への取り組みの心構えについて、日本労働安全衛生コンサルタント会の渡辺様より睡眠の重要性について講話頂きました。全社員で安全の誓いを唱和し、安全宣言を行いました。

安全は絶対的なものではなく、一人一人が意識して行動しなければいけません。今後も継続して開催し、全社一丸となって安全確保に努めていきます。



安全教育プログラムの実施

光洲エコファクトリー YOKOHAMA BAY 内の「安全体感室」を利用し、当社独自の安全教育プログラムを実施しています。このプログラムの特徴は、目的の共有と体感です。前半は、安全の重要性を全員が同じように理解するために、当社の理念を深く理解する内容、そして後半は、安全体感室の各設備を使用し、危険を実際に肌で感じる内容の 2 部構成です。隔週土曜日に 5 名程のグループで終日かけて教育し、これまでに累計約 400 名が受講しました。

その行為・行動が「危険」と認識することで、予知ができるようになり、未然に防ぐ行動が取れるようになります。様々な現場状況・作業環境に応じた安全な行動ができる社員を育み、社員の幸せを守れるよう、更なる安全教育に努めていきます。



社員の安全宣言！！

相手の目を見て
常に周りに気配りと
明るい笑顔を！



川崎・久地
尾形 章一

川崎・宇奈根
佐渡山 安則



営業部
永野 友貴



忙しくても見落としの
ないように重機は一定
の動きで安全を最優先！

一つ一つしっかり確認し、
手間を惜しむことなく、
積重ねていく事が安全
への近道



収集運搬
長島 哲也

「他者を変えるよりも
自分が変わる方が早い」
ので自分に矢印を向けて
行動します

KY 運転はもちろん、
事故に繋がらないための
メンテナンスも行います

作業前の一人 KY を実施し、
絶対に事故を起こさないこと
を宣言します



YOKOHAMA BAY
重久 昌之

収集運搬 (大型)
榎原 強



報告・連絡・相談を
的確に行い
コミュニケーション
で事故防止！



泉
水間 昭男

経営理念・方針

CSR 重点項目 2：人財づくり

光洲産業は社員ひとりひとりの力が集まって、お客様にサービスを提供しています。皆様から信頼され、また光洲産業を選んでいただけるそんな持続的な関係を創るのも社員ひとりひとりです。社会から求められ、愛され、信頼される人財を育てていきます。



社会に求められる人財になるために：理念教育の実施

社員がいきいきと働き、社会に求められる人財を育むために、理念教育に力を入れています。

『理念』には、当社は何のために存在し価値を提供するのかという「経営理念」・「経営方針」と、当社の考える会社人としてあるべき姿を明文化した「会社人としての信条～10のことば～」の2つを据えています。この一つ一つについて考え、理解を深め、行動に繋げるために、定期的かつ繰り返しの教育を行う安全教育プログラムと連動させて教育を行っています。

また、自ら考え行動する人財がステークホルダーとの信頼を生みだしていくと考え、毎年個人目標を設定し、自らのスキルアップを設定しています。

この理念教育を20年以上継続して行っています。目指す姿が共有できベクトルが合うことでチームワークが高まり、当社の基盤強化に繋がっています。

Challenge to “GOOD” circulation

～良好な循環への挑戦～



社会に役立つ会社人としての基礎 会社人としての10の信条

1. 利他（利他こそ和の根源）
2. 自責（自分の成長の考え）
3. 和（和を以て全社一丸）
4. 感謝（これで人生がある）
5. 徳（人間としての成熟）
6. 謙虚（控えめと素直でうまくいく）
7. 人間味（人間としての魅力）
8. 気配り・思いやり（人間としてのやさしさ）
9. 礼節（礼儀節度）
10. 誠実（誠）

社員の研修参加促進

朝礼で個人の学び発表

人財づくり教育の一環として当社では、朝礼時間を約1時間としています。

ラジオ体操から始まり挨拶練習・理念方針の唱和・報告・勉強会と進みます。勉強会では外部セミナー・読書などで学んだことを社員が自分の言葉で皆に伝えたり廃棄物処理法のテスト・ロープレ等を実施しています。



廃棄物社内勉強会の開催

資源循環の起点を各人が担っていけるよう勉強会を行っています。2ヶ月に一度定期的に講師を招き、産廃の知識や業界の情勢など、勉強会で得た知識はお客様に共有し、コンプライアンス遵守や新たな環境改善への取り組みに向けて参考にさせていただいております。今後も定期的開催し、ステークホルダーからプロとして信頼される人財育成にも力をいれていきます。



環境展示会等への参加

環境最新技術や機械などの多岐にわたる展示会に参加し、良いものを常に取り込み、進化し続ける企業となるために、環境展示会へ積極的に参加しています。

参加して得た情報は、各部門や委員会で共有され、活動計画の立案に活用しています。



Voice!

『企業はひとり』という言葉が理念方針の中にあります、当社では思い・考え方・人間性を高める教育にもっとも力を入れています。利他・自責・和・感謝・徳・謙虚・人間味・気配り思いやり・礼節・誠実を『会社人としての10の信条』として人間的に出来た人・仕事の出来る人の育成を目指しています

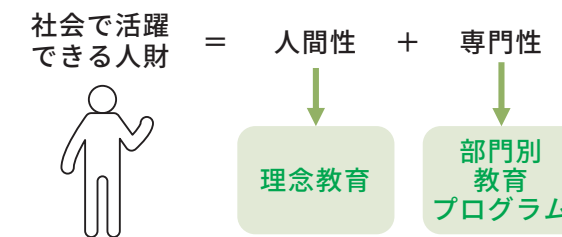


事業統括本部 部長
小尾 正則

専門性を高める部門別教育プログラムの構築

会社とは仕事を通じた人間教育の場であり、すべての社員に高い人間性と専門性を身につけてほしいと考えています。人間性を育ていくためには理念教育を継続して実施していきます。専門性の向上に向けては、当社は様々な業務があり、部門に応じて求められるものは多岐にわたります。

そこで、人間性と専門性を兼ね備えた教育プログラムを構築していくために、2019年度は各部門への研修・能力開発のための予算を創設します。各部門で教育方針を定め、育成していくことで、各部門のプロフェッショナル化を目指します。



CSR 重点項目 3： 環境保全



環境産業に携わるものとして、事業活動に伴う環境影響には最大限の配慮を行い、周辺地域の豊かな自然を守っていきます。

ISO14001 による環境マネジメントシステム運用

当社は産業廃棄物処理業を通し社会の環境保全、資源循環型社会形成並びに地球温暖化防止に貢献することを環境目的目標として ISO14001・環境マネジメントシステムに取り組んでいます。

環境目標として、廃棄物リサイクル率の 100% を目指し、廃棄物発生段階における分別サポートや収集時の分別、処理施設における徹底した選別作業と高性能精選別プラントにより出荷するリサイクル材の品質を上げ、現在 96% 以上のリサイ

クル率を確保しています。また、自主管理基準を設け、事業所の廃棄物 3R 活動、省エネのための節電等を全社員で推進しています。近隣地域への環境活動として、事業所周辺道路の清掃を毎日行い、地域環境活動にも積極的に参加しコミュニケーションを深めています。

今後も環境マネジメントシステムがより実効力のあるよう、処理施設の改善と環境教育を強化し、社会やステークホルダーのニーズに応えるよう努めていきます。

環境方針

当社は産業廃棄物の処理を行っていることをふまえ、処理業務において生じる環境に与える影響を最小限に抑えるため、下記の通り行動指針を定めます。

1. 当社中間処理工場の立地条件をふまえ、地域環境に与える影響を低減するため、施設の改善及び従業員の教育訓練に努めます。
2. 当社処理業務が地球環境に悪影響を及ぼすことのないよう環境管理を徹底します。
3. 廃棄物処理業者として適正処理に徹し、減量リサイクル率の向上・最終処分量の低減を図り、汚染の予防に努めて参ります。
4. 環境法規制等及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。

以上、行動指針を達成するため具体的な目的・目標を定め、全社一丸となって行動し、定期的に評価見直しを行うとともに環境管理の継続的改善を図ります。

また、この環境方針は全従業員に周知するとともに利害関係者の方々に公表します。

2001 年 8 月 1 日
株式会社光洲産業
代表取締役 光田 栄吉

エネルギーの適正使用

LED 照明等への更新

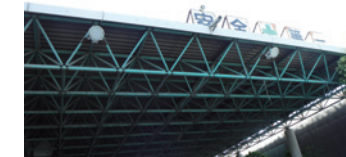
当社は環境産業に携わるものとして CO₂ 削減に貢献するために、2012 年より照明の LED 化を自社工事で取り組んでいます。蛍光灯や水銀灯から LED 照明への更新で照明の消費電力 70% 削減を目標にしており、2018 年までに蛍光灯約 1600 台、水銀灯約 300 台を更新しました。2019 年までには照明設備完全 LED 化となる予定です。

また、工場の中には作業中でないエリアに照明が点灯している場所が多々あり無駄が目立ちました。改善策として屋外照明はタイマー制御、屋内照明は人感センサーを導入しています。照明の消し忘れ防止が一番の CO₂ 削減とも考え、今後もエリアを拡大して更なる CO₂ 削減を目指します。

アイドリングストップの推進

当社の ISO14001 手順に則り、荷降ろし待ち時間等でアイドリングストップができていないかの確認と指導を適宜行いアイドリングストップの推進をしています。

トラックの場合、約 1 時間のアイドリングで約 1ℓ の燃料を消費します。しかし、燃費が 5 km/ℓ 程度のトラックなら、道に迷う等、余分な走行をすれば、ものの数分で 1ℓ の燃料を消費してしまいます。出発前に最短ルート調べ、道に迷わずスムーズな運行ができるよう指導をしています。



電気重機の導入

作業衛生環境の改善と、CO₂ 排出量の低減を目的に、電気式重機の導入を推進しています。2013 年には、光洲エコファクトリー YOKOHAMA BAY へ電動式油圧ショベル 2 台と蓄電池式フォークリフト 4 台を導入し、2018 年は光洲エコファクトリー 川崎・宇奈根へ蓄電池式フォークリフト 3 台を導入しました。

動力を電気にすることで、CO₂ 排出量は削減され、現場での排気ガスがゼロになり、クリーンな作業環境の実現に繋がりました。今後も当社は、人と地球環境に優しい作業環境の創造を目指していきます。



環境保全に向けたステークホルダーへの情報発信

廃棄物処理の観点から、ステークホルダーの皆様へ環境保全の意識を少しでも持っていただくために、工場見学を積極的に受け入れています。実際の廃棄物や処理の様子、どんなものにリサイクルされていくのかなど、リサイクルの流れに沿って説明し、3R の重要性を肌で感じていただいています。



排出事業者様工場見学



オープンファクトリー



小学生工場見学

Voice!

地域の皆様や未来を担う子ども達に、廃棄物処理という観点から「環境保全」を理解いただくために、機会のあるごとに説明会を開催しています。わかりやすい言葉を使つての説明に気を付けて、それらを理解してくれた時の子ども達の素敵な笑顔が堪りません。



営業部 企画推進課
神尾 秀顕



CSR 重点項目 4：
コミュニケーション



社員、お客様、協力会社様、地域の皆様など、光洲産業はステークホルダーの皆様が
あってこそ成り立っています。皆様とのコミュニケーションから光洲産業の道しるべ
を立て、持続可能な社会へと歩んでいきます。

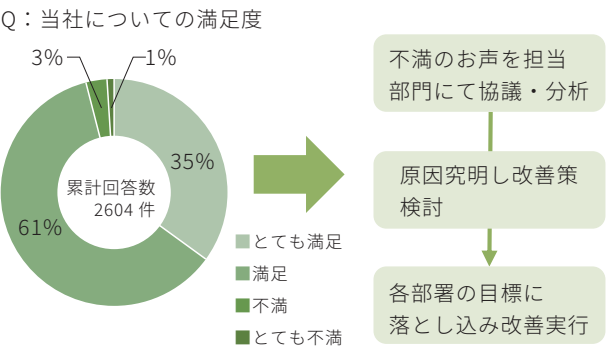
「講演と懇親の集い」開催

2018 年 10 月 29 日に第 7 回講演と懇親の集いを開催しました。このイベントは、日頃からお世話になっているお客様
や協力会社様をお招きし、廃棄物業界のこれからを考える時間
を共有しコミュニケーションを図ることを目的として開催して
います。
当日は約 350 名の方々にご参加いただきました。講演は、
アマゾンウェブサービスジャパン株式会社の門田進一郎様より、
アマゾンのクラウドサービスと産業界での活用事例をお話
いただき、その後の懇親会では建設業界における IoT 化が話題
となり、業界発展の可能性を更に感じました。また、懇親会
では普段とは違う形でのコミュニケーションが図れ、忌憚
ない意見も頂戴しました。



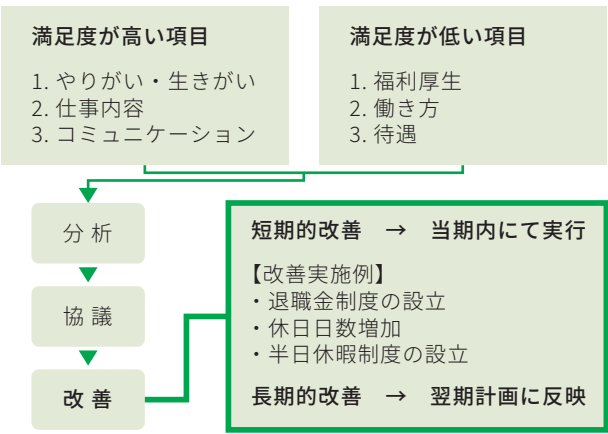
お客様・協力会社様へのアンケート実施

当社に視察に来て頂いた際や、年に一度開催している「講
演と懇親の集い」にご参加頂いたお客様・協力会社様に、当
社に対するご要望をお聞きするアンケートを行っています。
2018 年度は、合計 271 名ものお声を頂き、当社のサービ
スにおける満足度を調査しました。全体的に高い評価を頂きましたが、不満と感じていただいている点もご教授頂きました。
当社は、クレーム・ゼロを目指し、頂戴した貴重な声は
担当部門で協議・改善策を検討し、ご満足いただけるように
マネジメントしていきます。



社員アンケートの実施

『いい会社』を目指して、2018 年に初の社員アンケートを
実施しました。
今回は役職者向けにアンケートを実施し、当社の現状を
把握しました。その結果、仕事に対するやりがい等は日常
業務からも感じているが、福利厚生等のライフプラン形成
に関する項目に改善の余地があるという結果になりました。
早速社内で協議を重ね、休日制度の改定や退職金制度の設
立を行い、改善まで実施することができました。
2019 年度は全社員へのアンケート実施を計画しており、
社員の幸せ実現へのコミュニケーション機会として確立して
いきます。



レクリエーション活動を通じたコミュニケーション促進

当社では、社員自ら集まり運営を行う委員会が存在します。
その中の福利厚生委員会は、社員と様々なステークホルダー
とのコミュニケーションを促進することを目的に、様々な
レクリエーション活動や同好会活動の企画運営をしております。
毎年夏の恒例行事となった、江ノ島海岸での地引網バーベ
キュー大会には、社員とその家族を含め 399 名もの方が参加



し、催し物や食事を通して大きな家族のような温かいコミュ
ニケーションを図ることができました。
また、フットサル同好会やダーツ同好会などの活動も活発
で、地域で開催される大会への参加や、お客様や協力会社様
との交流試合も行い、交流の輪はさらに広がっております。



Voice!

2019 年度は、社員、お客様、協力会社様等から新しいご意見をいただき、更にコミュニケーション
が促進される斬新な企画を実行していきたいと思います。例えば、毎月活動しているフットサル同好会
では、子供や中高齢者も安全に楽しめる「ウォーキングサッカー」を実施する予定です。
皆様の期待に応え、“ワクワク”し、“いい会社”と感じて頂けるようなレクリエーションを運営して
いきます。

営業部 横張 恒

加盟団体活動への積極的参加

加盟団体一覧	
川崎商工会議所	関東木材資源リサイクル協会
川崎北工業会	建設廃棄物協同組合
横浜商工会議所	(社) 東京建物解体協会
(社) 神奈川県産業資源循環協会	(社) 神奈川県建物解体業協会
(一社) 東京都産業廃棄物協会	塩化ビニル管・継手協会
(一社) 千葉県産業廃棄物協会	神奈川エコネットワーク協同組合

業界全体の活性化や発展に向けて、関係各団体の活動
に積極的に参加しています。
加盟団体ごとに担当者を決め、定例会等に参加し、最新
の情報収集や意見交換を行っています。活動で得た情報は、
社内会議等で共有することで、お客様へのご提案や情報
発信に役立てています。
資源循環型社会形成は、皆様と共同することで実現しま
す。これからも積極的に参加し、時代の流れに沿った進化
をしていきます。

CSR 重点項目 5： 地域社会との共生



地域の皆様のご協力とご理解があったからこそ、光洲産業の今があります。
この地域の一員として、積極的に地域貢献活動を行っています。

SNS を活用した情報発信

ステークホルダーの皆様へ当社の“今”を発信するために、Facebook などの SNS を活用した情報発信を行っています。
SNS の運営は広報委員会が担当し、お客様向けのお知らせや当社の CSR 活動報告を行ったり、近隣住民の皆様へ当社の事業を知って頂くために、工場の様子や車両の紹介等も記事にしています。
今後はもっと閲覧数を増やし、さらに多くの方々に当社の取り組みを知って頂けるよう取り組んでまいります。



地域清掃の実施

各工場では毎朝工場周辺の清掃を行い、日頃より美化活動に努めています。その他に本社部門におきましては毎週火曜日の朝に清掃活動を行っています。日頃より多数の弊社関係車両の往来が多いため、近隣の方々にご迷惑をお掛けしない

様心がけています。
また、地域団体主催の清掃活動も精力的に参加させて頂いています。

Voice!

日頃より、本社及び各工場の周辺の清掃活動を行っています。清掃を行っている際には、通行される方々より「おはようございます。」「有難うございます。」や「お疲れ様です。」などのお声を掛けて頂き、社員の励みになっております。
社員一同、地域の方々に必要とされる企業を目指し、これからも地域清掃はもとより、様々な活動に努めてまいります。



営業部
斉藤 成哲

地域活動への参加

この地で事業をさせて頂いている感謝の気持ちを表す活動として、地域で開催されるイベント等に積極的に参加しています。

2018年

- 1月：久地神社清掃
- 2月：神奈川県日赤紺綬有効会より感謝状授与
- 6月：多摩川清掃美化活動に参加

2018年6月3日に第40回多摩川美化活動（主催：川崎市）に参加しました。「多摩川をきれいに、よごさない、親しまれる川」を合言葉に、1979年にスタートしたこの多摩川美化活動は、川崎市内5カ所で同時に開催され、今回は地域の171団体、14,208名もの参加者で河川敷の清掃を行いました。当社からは86名が参加し、新二子橋から東名高速道路手前までの河川敷を清掃しました。

当日は、地域の方々や社内部門を越えたメンバーが共に活動を行うことで、良いコミュニケーションにも繋がりました。また、地域の豊かな自然を次世代に渡していけるよう、毎年継続して参加していきます。

- 7月：川崎フロンターレサポートカンパニーに参加
- 7月：日本自然保護協会に参加

当社は、自然の豊かさや大切さを次世代に伝えるメッセンジャーとなるために、公益財団法人日本自然保護協会に加盟しており、2018年7月に開催された「自然観察指導員講習会」に参加しました。

この講習会は、「自然観察からはじまる自然保護」を合言葉に、地域に根ざした自然観察会を開き、自然を守るための仲間をつくるボランティアリーダーを育成するためのもので、当社社員が受講しました。

一人一人の出来ることは小さくても、想いを持った人が少しずつでも活動することで、たくさんの仲間をつくるができます。当社も自然観察指導員として、子供たちに自然の大切さを定期的に伝えていきます。

- 8月：川崎北工業会納涼祭に出展

2018年8月24日に開催された第9回川崎北工業会納涼祭（主催：一般社団法人川崎北工業会）へ出展しました。

今回は当社のお客様である、ジェクト株式会社様にお力添えいただき、木工教室を開きました。地元のJリーグチーム・川崎フロンターレの公式マスコット「カブレラ」くんの木型を自分でやすり掛けや色塗りをし、オリジナルの木製バッジを作成していただきました。

参加者の皆様に好評頂き、準備していた100セットが1時間半で終了しました。一緒になって作品を創りあげていくことで、良いコミュニケーションの機会となりました。

- 10月：川崎市植樹祭

2018年10月27日に開催された市民100万本植樹運動（主催：川崎市）に参加しました。この活動は、川崎市民と事業者が協働で行っており、当社からは代表者3名が参加し、川崎区内の公園に植樹しました。

- 11月：ビーチクリーン活動





CSV： リサイクル

光洲産業は資源循環型社会形成の起点となるために、
広くリサイクルの推進とより高精度なリサイクルを追求
していきます。



蛍光ランプのリサイクル

2017年10月1日より、水銀に関わる産業廃棄物の取扱いが規制強化され、適正な処理をより求められるようになりました。

当社で取扱う蛍光ランプは、水銀を飛散させない専用の破砕機を用いて適正処理を行い、100%リサイクルされています。

2018年度は約50tの蛍光ランプを処理しました。



光学選別機の導入

2017年度にトムラソーティング社製（本社ドイツ）の光学選別機を光洲エコファクトリー YOKOHAMA BAY に導入しました。この選別機は、コンベアーで搬送されている廃棄物を近赤外線や電磁センサで読み取り選別するものです。当社では混合廃棄物の中に存在する塩素系のプラスチックや金属類を読み取り選別除去しています。

これにより、より品質の高い可燃物の分別ができ、塩素系プラスチックの混入が減ることから、燃料としてリサイクル活用される際のダイオキシン抑制にも期待出来ます。



人のチカラによるリサイクル率の向上

当社に搬入される廃棄物の多くは、建設現場から発生するものです。現場環境や工事の内容に応じて、様々な種類の廃棄物が混合された形で搬入されるケースも多々あります。

その中からリサイクルできるものを選び、取り除き、次の活用ができる状態にしなければなりません。当社では、廃棄物処理の各段階で、人による選別に力を入れています。

目で見て、触れて、経験を元に素早く選別していくことで、当社のリサイクル率があると実感しています。様々な設備も導入しておりますが、人のチカラが絶対に必要です。

資源循環型社会をつくっていくために、人のチカラと機械のチカラを掛け合わせた当社のリサイクルシステムを追い求めていきます。



選別しながら荷卸し



荷卸し後はまず粗選別



選別ラインで一つ一つをピックアップ

分別サポートの実施

リサイクル率の向上や最終処分量の低減を計るために、お客様の排出事業場における分別サポートを行っています。

着工前には発生予定の廃棄物やその量を勘案し、適正な分別方法や回収工程のご提案を行います。また分別方法に沿った産廃ヤードを設置し、きちんと分別されているかのパトロールも実施します。時には、現場で作業されている方

や廃棄物業務に携わる方に分別説明会等も行い、現場からの排出量削減やコスト削減、環境配慮への意識改革に貢献しています。

今後は、お客様と伴走しながら適正な現場分別環境をサポートできる社員の育成にも力を入れ、排出事業場から分別の意識を広げていけるように力を入れていきます。



リサイクル製品の普及促進

当社にて受け入れている建設系廃棄物の中から中間処理を施し、リサイクル製品を生みだしています。

木くずは一定の大きさに破砕をし、磁力選別機で釘などを分離させた後に、燃料チップとして製紙会社やバイオマス発電所で活用いただいています。また、がれき類に関しても破砕後、粒度をそろえる選別を行った上で、再生砕石や再生砂として、路盤材や埋め戻し材として活用いただいています。

このようなリサイクル製品をより社会に還元していくために、関連団体に加盟し情報発信を行ったり、今後は展示会への出展も計画しています。より多くの場で活用され、循環の輪を広げていけるよう活動していきます。



製紙会社等で
燃料チップとして活用

建設会社等で
路盤材・埋め戻し材
として活用